日々の積み重ね

浪江町長　馬場　有

季節は秋に入り、朝夕は寒気がひとしお身にしみるようになりました。

秋といえば、丹精込めて育てた作物が実り、木々が真っ赤に紅葉している町内の風景や、子どもから大人までの大勢の人で賑わっていた十日市の様子が今でも脳裏に焼き付いています。

町内に祭りの笛の音が響くまでは、いましばらく時間がかかります。が、先月は、震災後の町内で初めて、大きな行事を開催することができました。10月9日、浪江町合併60周年記念式典および浪江町消防団秋季検閲式を、竣工したばかりの浪江町地域スポーツセンターにて、挙行することができたのです。

震災時に、完成間近だったスポーツセンターは、修繕を経て待望のオープンとなり、これからは復興のシンボルの一つとして、多くの行事会場として利用されることになるでしょう。先月末には、これも待望の仮設商業共同店舗施設「まち・なみ・まるしぇ」がオープンしました。これらハード面の復旧・復興は、着実に目に見える形になってきています。

来るべき避難指示解除の時期については、これまでも報告しているとおり、有識者検証委員会からの報告のあった16の課題に取り組み、議会、町民の皆さまの意見をお聞きして、総合的に判断することになります。なかでも、医療・福祉・介護の体制整備、買い物の利便性の向上、そして放射線対策、これらは特に喫緊の課題と認識して取り組んでいます。

そのなかで、解除に向けたひとつのステップである特例宿泊を、9月に初めて実施しました。利用された町民の方は異口同音に「我が家は落ち着く」とおっしゃっていました。同時に、防犯上の懸念や有害鳥獣による被害など、この特例宿泊で改めて浮き彫りになった課題もあります。

それらを踏まえつつ、今月からいよいよ次の段階である準備宿泊が始まりました。準備宿泊は、期限を区切りません。一日も早く町内に帰りたい方が、帰る準備をするための期間です。

もちろん、様々な理由で帰りたくても帰れないという皆さんがたくさんおられることも承知しています。帰る・帰らない、いずれの選択も尊重されるべきです。帰れない方への支援は、避難指示解除後もできる限り継続し、町との絆を維持していただけるような施策を展開してまいります。

たとえば十日市のような祭りを町内で再び開催できるようになれば、多くの方がふるさとに集う機会となるでしょう。来年の秋は、ぜひ浪江の町に笛の音を響かせたいものです。

何かと忙しい師走はもうすぐです。くれぐれもご無理をなさらないようご自愛ください。